

研究レポートの目的

(みえ県民意識調査の経緯)

県では、「みえ県民力ビジョン」において「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げています。

そこで、県民の皆さんの幸福実感を把握するため、県内にお住まいの20歳以上の方10,000人を対象に、平成24年1月から2月にかけて「第1回みえ県民意識調査」を実施し、平成24年5月に、その結果を公表したところです。

(研究の目的)

みえ県民意識調査は、県民の皆さんの幸福実感を把握し、県政の運営に活用しようと、新しく実施したところですが、一方で、主観的な幸福実感に焦点を当てた初めての調査でもあり、実施時点では、その結果をどこまで政策議論等に活用できるのか、未知数でもありました。

単純なデータ集計により、幸福実感の現状値などを把握することはできましたが、しかしながら、政策議論等に直接つながるような成果を示すまでには至っていませんでした。

そこで、調査データをもとに、県民の幸福実感の向上と政策のあり方について議論を喚起し、深めていけるような情報を提供するため、戦略企画部内に「みえ県民意識調査活用研究会」を設け、専門家の助言も得ながら、さらに踏み込んで分析を進めてきたところです。

(分析を進めるにあたり、特に重視したこと)

- ・どの項目が県民の幸福実感に影響を与えるのか、あるいは、どの政策が幸福実感の向上によりつながるのか、といった視点に立つこと。
- ・統計的手法により分析を行うとともに、統計的な有意性の有無について確認すること。
- ・データから読み取れる観察的事実と、そこから得られる仮説や検討課題等を区別して整理すること。

(レポートの構成等)

項目	内容
第1章 県民の幸福実感の現状	幸福実感に影響を与えているものは何かを探るため、幸福感を属性別に細分化の上、「日ごろの暮らしについての実感」と合わせ、特徴や傾向を抽出
第2章 幸福実感指標の現状	「みえ県民力ビジョン」に掲げる16の幸福実感指標に対応する「地域や社会の状況についての実感」を、属性別に分析
第3章 幸福実感と他の実感との関係	幸福実感に影響を与える項目、幸福実感の向上に重要な項目等について考察するため、幸福実感とその他の実感の関係について統計的に分析
第4章 県民の幸福実感向上のための政策課題等	分析データから読み取れる観察的事実をもとに、県民の幸福実感を高めるための政策課題などについて考察

(備考)

- ・このレポートでは、10点満点で調査した日ごろ感じている幸福実感についてのみ「幸福実感」として記述し、地域や社会の状況や日ごろの暮らしについての実感を含む県民の主観的な実感全体については、「幸福実感」として記述しています。
- ・スペース等の都合上、選択肢の表現等を趣旨が変わらない程度に簡略化して記述しています。
- ・統計的や手法や詳細な分析等については、資料編としてまとめています。